

「主の御手に抱かれて」

リ्यूージュのテレジア 田島 弘子

私が初めて聖ルカ礼拝堂の主日礼拝に列席させていただいた日より、早、三年の月日が流れました。当時私は受験校として区外からの入学者も多く荒れがちな小学校に在籍していた息子に、パイプオルガンの音を聴かせたい、又、自分自身も聖歌を歌い、祈りの時を持ちたいという願望に衝き動かされておりました。聖歌隊の方々に温かく迎え入れていただき、皆さんの見守りの中、司祭の先生方のお説教の中、少しづつ少しづつ受洗という新たな歩みの道へ導かれて参りました。日常の様々な出来事の中、主の道を離れない為、さらに強く教会に結ばれたいと願うようになりました。受洗準備の勉強会では、学生の頃、心の中に培われて来た思いがとても漠然としたものである事に気付かされ、歴史的な事実、聖書の御言葉、井原先生のお話より、神様の深い愛と、祈りの持つ本当の意味の深さが何度も心に浸み入って参りました。さらに受洗後も信仰は成長を続けるものと認識され、主日礼拝に列席される多くの方々の中に、自分の信仰者としての成長への願いも抱くようになり

ました。

司祭様をはじめ、多くの方々により神様の豊かな御恵みを受け、洗礼式、堅信式、初陪餐の日を迎えさせていただきました。主よ、御体をもてわが魂を養い給え。御血をもつてわが罪を洗い給え。今も臨終の時も…。初陪餐の時、胸に感じた記憶を私は生涯忘れる事はないでしょう。アンセムの詩が心に響くようです。

これからも聖歌隊の皆さんとのつながりを大切にさせていただきながら、礼拝の中に、自分のなすべき業を見出す力が与えられますよう、お祈り致したいと存じます。

一方、新しい学校生活に恵まれた息子は教会でも純真な眼差しでイエス様について学ぶ機会を与えていただき、先に洗礼を受けた母親の私をすぐ近くで見つめておりますが、身構える事なく、共に神様の方へ眼差しを向け参りたいと願っております。小さな子供達にも神様の大きな深い愛を教えて下さる教会とチャプレンの先生に、深く深く感謝の意を表したいと思えます。又、幼い頃より競争の中に身を置かれて来たらしい小学生のお友達にも、神様のいつくしみを知り、友を大切に思う賛美の歌が届きますことを祈りつつ…。